

領 域	専門分野(看護マネジメント)	開講時期	3 年前期～後期
科 目 名 (単元名)	看護組織管理	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	① 辻丸 祐規子 (別府医療センター 看護部長 認定看護管理者 看護師 35 年) 佐藤 恭子 (別府医療センター 副看護部長 看護師 37 年) 今村 繭子 (別府医療センター 副看護部長 看護師 31 年) ② 渡邊 真弓 (別府医療センター附属大分中央看護学校 教育主事 看護師 33 年) ③ 原田 千恵子 (別府医療センター附属大分中央看護		

回	授業内容	授業方法	担当講師
3	4. 看護ケア提供システム 1)看護方式 (1)プライマリーナースィング (2)チームナースィング (3)患者受け持ち方式 (4)機能別看護方式 (5)その他の看護ケア提供システム ①モジュール型継続受け持ち方式 ②固定チームナースィング 2)業務量の測定と必要看護要員の算出 3)看護単位の区分と機能 5. 人材のマネジメント 1)労働時間管理とタスクシフト 2)勤務体制 ①3 交替制、②2 交替制、③変則交替制、④当直制 3)育児休業、介護休暇等	講義	①
4	6. 施設・設備環境のマネジメント 1) 医療施設の設備・設備環境 2) 療養環境の整備 3) 作業環境の整備 7. 物品のマネジメント 1) 物品資源管理の原則 2) 物品供給システム 3) 医薬品の取り扱いと管理 4) 医療機器等の管理 5) 廃棄物の取り扱いと管理 8. 情報のマネジメント 1) 情報の種類と管理 (1) 病院の経営情報 (2) 職員情報 (3) 守秘義務 (4) プライバシーの保護 (5) 情報開示への対応 (6) 診療記録等の電子化と医療情報システム	講義	①
5	9.組織におけるリスクマネジメント 1) 組織としての医療安全 (1)安全管理の仕組み 院内の医療安全管理組織(セーフティマネージャー、各部署の医療安全管理担当者の役割) (2)医療事故対策 (3)院内感染対策 ① 職業感染 ② 看護師が行うべき職業感染への予防策 ③ ICT の役割 2) 災害予防と対応 (1) 組織のリスクマネジメントとは (2) 事業継続計画 ① 火災対策 ② 地震対策	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
6・7	11. 医療・看護における質保証と評価 1) ケアマネジメントと看護職の機能 2) 看護基準と看護手順 3) 患者の権利の尊重 4) 医療安全のためのルールの順守と情報共有 5) 病院機能評価 6) 診療報酬制度 7) 看護必要度	講義	①
8・9	1) 看護職者のキャリア形成に関する法・制度 (1) 保健師助産師看護師法 ・看護職の臨床研修等の努力義務 (2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 ・研修等による看護師等の資質向上 (3) 看護業務基準 ・関連分野の最新の知見や技術の習得 ・看護実践の向上のための教育的環境の提供 (4) 看護者の倫理綱領 ・個人の責任として継続教育による能力の開発・維持・向上等 2) 看護職の教育制度 (1) 看護基礎教育課程 (2) 継続教育 3) 専門性の高い看護職の養成および認定制度 ・専門看護師・認定看護師・認定看護管理者、特定行為に係る看護師の研修制度 4) 看護職者のキャリアマネジメント (1) 看護職のキャリア形成 ・キャリア発達とキャリア開発 ・看護師の技能修得段階 (2) 新人職員の臨床実践能力の向上 ① 新人看護職研修の努力義務化 ② 新人教育・研修 ・経年別教育とクリニカルラダー ・プリセプターシップ、メンターシップ、チュートリアルシステム ・OJT と Off-JT	講義 演習	②
10	II. 国際看護 1. 看護における国際化の視点 1) グローバル化と世界共通の健康目標 2) グローバル化と人間の安全保障 3) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション 4) 国際保健における日本の役割 2. 国際保健医療協力に関係する機関 1) 政府開発援助 (ODA) 2) 国際機関 3) 非政府組織 (NGO) 3. 国際看護活動の支援を必要とする対象の健康問題 1) 開発途上国に暮らす人々 2) 在留外国人 3) 在外日本人 4) 帰国日本人	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
11	4. 文化を考慮した看護 1)異文化・多文化理解 2)コミュニケーション能力 在日外国人の保健医療とその課題 3)マネジメント能力 在外日本人の保健医療とその課題 4)在日外国人が日本で経験する医療文化の違い 5)教育指導能力 5. 国際看護活動の実際（実践報告） 6. 在日外国人への看護 1) 保健医療現場における外国人対応 2) 大分県における外国人への医療サポート	講義	③
12	Ⅲ. 災害看護 1. 災害の定義と種類 1)災害看護の定義 2) 災害の種類と特徴救急看護との相違点 2. 災害医療の特徴 3. 災害時における法制度や社会のしくみ 1) 日本の制度: 災害救助法、災害対策基本法、大規模地震対策特別措置法 2)国際的支援のしくみ 3)災害対応にかかわる職種間・組織間連携	講義	④
13	4. 災害看護の特徴と看護活動 1) 災害看護の対象者 2) 活動現場別・災害サイクル別の看護活動 3) 災害救援活動者への安全対策 4) 災害看護活動に必要な情報 5) 災害看護活動におけるアセスメント 6) 災害看護場面におけるシレンマ 5. 災害時における看護師の役割 1)災害による健康上の問題をもつ人の救命、疾病治癒促進、環境調整、心のケア 2)日常生活、生活環境調整、健康の保持 3)健康障害によって生じた苦痛の軽減 4)もとの生活へ向けて、自立的に復興していく力を支援する 5)チームでの連携、調整 6)平時の防災力備蓄支援 7)ケア提供者の健康保持	講義	④
14	6. 災害サイクルに応じた医療ニーズと看護 1)静穏期(防災計画、マニュアル整備、地域医療体制見直しなど) 2)前兆期(緊急体制整備) 3)急性期 1 週間(初動体制の立ち上げ、災害傷病者の受け入れ態勢の整備、被災現場への医療救護班の派遣、他の医療機関との連携、救助、トリアージ、応急処置、救命) 4)亜急性 2～3週間(生活援助、初期集中治療、感染症対策、合併症対策、心のケア) 5)慢性期 2 週～3 年間(復興、リハビリテーション、心のケア) 7. 災害各期における援助者のストレスとこころのケア	講義	④
15	8. トリアージ	演習	⑤

授業の進め方

テキストの内容と看護現場での状況や事例を紹介しながら授業をすすめる。講義を中心に進める。看護制度、看護職員の教育について学習し、自身の課題や卒業後にどうあるべきかグループワークを通して考える。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[1] 看護管理(医学書院) ①②
2. 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学(医学書院) ③④⑤

評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	3 年前期～後期																							
科 目 名	看護の統合演習	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間)																							
講 師	山田 祐子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 28 年)																									
<科目目標> 変化する状況を把握し、臨床判断を用いて必要な看護をマネジメントしながら実践する能力を身につける。																										
<内容> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>授業内容</th><th>授業方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> <看護の統合演習ガイダンス> 1. 本科目の目的・目標 2. 進め方 3. 看護実践力向上のためのリフレクションについて 【第 1 部】 1. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護計画立案 ①事例における対象理解 ②患者 A に実施される看護の根拠 ③患者 A に実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者 A への説明 【事後課題】 患者 A の看護計画を①～⑤の視点で立案する。 </td><td>講義 個人ワーク</td></tr> <tr> <td>2</td><td>2. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護計画立案</td><td>グループワーク</td></tr> <tr> <td>3</td><td> 【事前課題】 患者 A の看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 3. 患者 A の状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習① </td><td>演習</td></tr> <tr> <td>4</td><td> 【事前課題】 患者 A の看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 4. 患者 A の状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習② </td><td>演習</td></tr> <tr> <td>5</td><td> 5. 看護技術演習③ I-SBARC を活用した報告 </td><td>演習</td></tr> <tr> <td>6・7</td><td> 6. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護の実践 ー1) 看護実践 ー2) リフレクション </td><td>シミュレーション演習</td></tr> <tr> <td colspan="3"> 【夏季休業中課題】 *講義の進捗により課題の内容は変更する可能性がある。 7. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 B）の看護計画立案 1) 患者 B の看護計画を立案する。 ①事例における対象理解 ②患者 B に実施される看護の根拠 ③患者 B に実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者 B への説明 2) 患者 B の看護実践に必要な看護技術の内容について学習し、技術練習する。 </td></tr> <tr> <td>8</td><td> 8. 複数の看護技術を要</td></tr></tbody></table>	回	授業内容	授業方法	1	<看護の統合演習ガイダンス> 1. 本科目の目的・目標 2. 進め方 3. 看護実践力向上のためのリフレクションについて 【第 1 部】 1. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護計画立案 ①事例における対象理解 ②患者 A に実施される看護の根拠 ③患者 A に実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者 A への説明 【事後課題】 患者 A の看護計画を①～⑤の視点で立案する。	講義 個人ワーク	2	2. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護計画立案	グループワーク	3	【事前課題】 患者 A の看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 3. 患者 A の状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習①	演習	4	【事前課題】 患者 A の看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 4. 患者 A の状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習②	演習	5	5. 看護技術演習③ I-SBARC を活用した報告	演習	6・7	6. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護の実践 ー1) 看護実践 ー2) リフレクション	シミュレーション演習	【夏季休業中課題】 *講義の進捗により課題の内容は変更する可能性がある。 7. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 B）の看護計画立案 1) 患者 B の看護計画を立案する。 ①事例における対象理解 ②患者 B に実施される看護の根拠 ③患者 B に実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者 B への説明 2) 患者 B の看護実践に必要な看護技術の内容について学習し、技術練習する。			8	8. 複数の看護技術を要
回	授業内容	授業方法																								
1	<看護の統合演習ガイダンス> 1. 本科目の目的・目標 2. 進め方 3. 看護実践力向上のためのリフレクションについて 【第 1 部】 1. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護計画立案 ①事例における対象理解 ②患者 A に実施される看護の根拠 ③患者 A に実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者 A への説明 【事後課題】 患者 A の看護計画を①～⑤の視点で立案する。	講義 個人ワーク																								
2	2. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護計画立案	グループワーク																								
3	【事前課題】 患者 A の看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 3. 患者 A の状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習①	演習																								
4	【事前課題】 患者 A の看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 4. 患者 A の状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習②	演習																								
5	5. 看護技術演習③ I-SBARC を活用した報告	演習																								
6・7	6. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 A）の看護の実践 ー1) 看護実践 ー2) リフレクション	シミュレーション演習																								
【夏季休業中課題】 *講義の進捗により課題の内容は変更する可能性がある。 7. 複数の看護技術を要する 1 名の患者（患者 B）の看護計画立案 1) 患者 B の看護計画を立案する。 ①事例における対象理解 ②患者 B に実施される看護の根拠 ③患者 B に実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者 B への説明 2) 患者 B の看護実践に必要な看護技術の内容について学習し、技術練習する。																										
8	8. 複数の看護技術を要																									

10	2. 2名の患者（患者A、患者B）の看護実践における行動マネジメント立案①	グループワーク
11	【事前課題】患者A・Bの看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 3. 2名の患者に対する看護実践のための技術演習	演習
12	2名の患者の看護実践における行動マネジメント立案②	グループワーク
13. 14	4. 2名の患者に対する看護実践 ー1) 看護実践 ー2) リフレクション	シミュレーション演習
15	5. 2名の患者へのケアマネジメントまとめ 【事後課題】2名の患者への看護実践をふまえて、統合実習での自己の課題についてレポートする。	講義
授業の進め方 本科目は2部構成で講義を展開する。これまでに学んだ知識と看護技術をもとに対象の状況に応じた看護を臨床実践に近い形で実践する。第一部では、複数の看護技術を要する1名の事例患者に対し、一つ一つのケアの根拠と起こりうるリスクをふまえ、一連のケアの中での優先度を判断し安全・安楽に実践する方法を学ぶ。 第2部では、1部での学習内容をふまえて、2名の事例患者を受け持ち、状況に応じてそれぞれの看護の優先度を判断し、他の患者への配慮や調整をしながら安全・安楽な看護を実践する方法を学ぶ。 実践（シミュレーション）で必要となる知識及び看護技術は各自で時間を確保し復習すること。		
テキスト 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理（医学書院） 他、演習内容に応じてこれまでのテキストすべて		
評価方法 レポート、筆記試験等総合的に評価する。		

領 域	専門分野(看護マネジメント)	開講時期	3 年前期～後期																											
科 目 名 (単元名)	看護倫理	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)																											
講 師 (所属・職位等・実務経験)	平川 真紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師および助産師 18 年)																													
<科目目標> 倫理的意思決定の理論をもとに、看護チームでの意思決定を導くプロセス、倫理的ジレンマについて理解する。																														
<内容> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>授業内容</th><th>授業方法</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>1. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>2</td><td>5) 倫理原則 6) 看護専門職組織の役割と倫理綱領</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>3</td><td>2. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くツール ① 「4 ステップモデル」 ② ジョンセンの 4 分割表 3) 意思決定支援のためのガイドラインの活用 意思決定支援と倫理 (1) 代理意思決定の支援 意思決定支援と倫理 (2) 高齢者の意思決定支援 意思決定支援と倫理 (3) こどもの意思決定支援 4) インフォームドコンセントと倫理</td><td>講義 演習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>5) 4 ステップモデルによる事例検討ー①</td><td>演習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>6) 4 ステップモデルによる事例検討ー②</td><td>演習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>7) 4 分割法による事例検討</td><td>演習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>3. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 4. 患者の倫理的意思決定を支える多職種連携</td><td>講義</td></tr> <tr> <td>8</td><td>終了試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務	講義	2	5) 倫理原則 6) 看護専門職組織の役割と倫理綱領	講義	3	2. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くツール ① 「4 ステップモデル」 ② ジョンセンの 4 分割表 3) 意思決定支援のためのガイドラインの活用 意思決定支援と倫理 (1) 代理意思決定の支援 意思決定支援と倫理 (2) 高齢者の意思決定支援 意思決定支援と倫理 (3) こどもの意思決定支援 4) インフォームドコンセントと倫理	講義 演習	4	5) 4 ステップモデルによる事例検討ー①	演習	5	6) 4 ステップモデルによる事例検討ー②	演習	6	7) 4 分割法による事例検討	演習	7	3. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 4. 患者の倫理的意思決定を支える多職種連携	講義	8	終了試験	
回	授業内容	授業方法																												
1	1. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務	講義																												
2	5) 倫理原則 6) 看護専門職組織の役割と倫理綱領	講義																												
3	2. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くツール ① 「4 ステップモデル」 ② ジョンセンの 4 分割表 3) 意思決定支援のためのガイドラインの活用 意思決定支援と倫理 (1) 代理意思決定の支援 意思決定支援と倫理 (2) 高齢者の意思決定支援 意思決定支援と倫理 (3) こどもの意思決定支援 4) インフォームドコンセントと倫理	講義 演習																												
4	5) 4 ステップモデルによる事例検討ー①	演習																												
5	6) 4 ステップモデルによる事例検討ー②	演習																												
6	7) 4 分割法による事例検討	演習																												
7	3. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 4. 患者の倫理的意思決定を支える多職種連携	講義																												
8	終了試験																													
授業の進め方 看護倫理を考える上で基礎となる倫理原則について、歴史的経緯や具体的な看護場面をもとに学習する。また、倫理的ジレンマを抱いた実習での場面を想起し、その場面について 4 ステップモデルや 4 分割表を用いて整理し、グループ演習をとおして倫理的意思決定の方法を理解する。																														